

EHIME えひめトレード&トレンド TRADE & TREND

●エヒメフォーカス

松山市の国際化施策と台湾への進出について

松山市長 野志克仁氏

●ニューストピックス

平成24年上半期の愛媛県内の貿易概況

愛媛県産業貿易振興協会

●会員紹介

有限会社木下工業

●海外ビジネス

韓国で愛媛・松山の魅力を発信

財団法人自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 松崎謙二氏

●貿易投資 Q&A

単独出資と合併のメリット比較：ベトナム

●『産貿協』からのお知らせ

平成24年度 国際ビジネス支援講座の開催

松山市の国際化施策と 台湾への進出について



松山市長 野志 克仁

皆様には、日頃から松山市政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の経済情勢は、政策効果などを背景に景気の持ち直しが期待されるものの、電力供給の制約、原子力災害や欧州債務危機の影響のほか、雇用情勢の悪化に対する懸念など、依然として予断を許さない状況にあります。

このような中、松山市では地元企業の更なる国際化を進めていくため、2010年度から海外への販路開拓を希望する市内企業に対し、国内外で開催される国際見本市への出展料等を補助する「松山市国際見本市出展事業」を行っています。国内はもとより、世界中で開催される国際見本市が対象であり、企業のニーズに合わせ御活用いただくことができるもので、この補助制度を基本としながら、今回特に注力するのが台湾への進出促進です。

松山市と台湾との間においては、2007年から台北市にある松山区との交流が始まり、2011年には台北市北投温泉まつりに参加するなど観光交流が進められています。また、本年6月から日台合弁会社の(株)E-SOLAR（太陽光モジュール製造）が操業を開始するなど誘致の事例も出てきており、さらなる経済交流を進めるため、販路開拓等を推進していきたいと考えています。

また台湾には、優れた技術や中国への販売網を有する企業が多く、進出先あるいは市場として大きな魅力を持つ国であり、今後におきましては情報提供や個別相談を主体としたセミナーの開催、えひめ・まつやま産業まつりの開催に合わせた台湾事情に精通したアドバイザーを招いてのコンサルテーションのほか、2013年6月に開催される台湾最大の食の見本市「FOOD TAIPEI 2013」への市内企業出展支援などを行ってまいります。

国内市場が先細りする中、企業存続のためには海外市場を求めて早い段階から準備していくことがますます重要となってきます。本市といたしましても愛媛県産業貿易振興協会をはじめ関係機関と連携を図りながら、可能な限りきめ細かな支援メニューを設け、引き続き海外情報の提供や意識啓発のほか、共同での見本市出展など“寄り添い型”の支援体制で地元企業の皆様の支えていきたいと思っておりますので、皆様の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年上半期の愛媛県内の貿易概況

愛媛県産業貿易振興協会

先般、神戸税関から2012年（平成24年）上半期の管内貿易概況が発表されていますので、その概要について（確報値および一部速報値）ご紹介いたします。

1. 愛媛県内の貿易概況

(1) 総括

愛媛県内の貿易は、輸出が3,869億円と前年同期比で6.9%増加していますが、輸入は4,958億円と同5.9%減少したため、総額で8,827億円と前年同期比0.7%の減少となっています。

四国圏の貿易額に占める愛媛県内貿易額の割合は、総額で60.5%となっており、63.0%であった前年同期よりも2.5%低下しています。また、全国の貿易額に占める割合は、総額で1.3%と前年同期比0.1%低下しています。

なお、愛媛県内の貿易額とは、神戸税関管内で愛媛県内の松山（宇和島出張所を含む）、今治、新居浜（三島出張所を含む）各税関支署における貿易額です。

（表1）2012年（平成24年）上半期の貿易額（確報値）

	愛媛県の貿易額				四 国	全 国
	(百万円)	前年同期比	四国比	全国比		
総額	882,722	99.3%	60.5%	1.3%	1,459,441	68,114,645
輸出	386,900	106.9%	68.6%	1.2%	564,159	32,594,757
輸入	495,822	94.1%	55.4%	1.4%	895,282	35,519,888

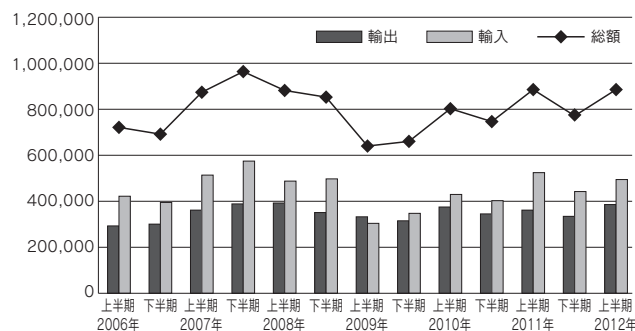
(2) 輸出入額の推移

愛媛県内の輸出入額推移は、以下のとおりです。

（表2）愛媛県の平成24年上半期の輸出入額推移（確報値）
（単位：百万円、%）

	輸出		輸入		総額	
	価 額	前年同期比	価 額	前年同期比	価 額	前年同期比
1999年	301,918	81.3	276,148	94.7	578,065	87.2
2000年	314,486	104.2	352,893	127.8	667,379	115.5
2001年	278,457	88.5	367,364	104.1	645,821	96.8
2002年	312,644	112.3	353,359	96.2	666,004	103.1
2003年	333,470	106.7	410,583	116.2	744,053	111.7
2004年	402,765	120.8	502,341	122.3	905,105	121.6
2005年	486,492	120.8	608,758	121.2	1,095,250	121.0
2006年	594,741	122.3	820,138	134.7	1,414,879	129.2
2007年	750,084	126.1	1,090,263	132.9	1,840,347	130.1
2008年	745,892	99.4	984,860	90.3	1,730,752	94.0
2009年	647,033	86.7	655,219	66.5	1,302,252	75.2
2010年	719,891	111.3	831,851	127.0	1,551,741	119.2
2011年	695,824	96.7	971,312	116.8	1,667,136	107.4
2012年上半期	386,900	106.9	495,822	94.1	882,722	99.3

（グラフ1）愛媛県の平成24年上半期輸出入額の推移



（注）（表2）および（グラフ1）は以下による。

1. 輸出はFOB価格、輸入はCIF価格
2. 輸出は、当該輸出貨物を積載する船舶又は航空機出港日をもって計上
3. 輸入は、当該輸入貨物の輸入の許可日をもって計上
4. 「2012年上半期」は速報値

2. 輸出の状況

(1) 主要品目別の輸出状況

平成24年上半期の愛媛県内の輸出状況（速報値）は、主要3品目中、「船舶類」が1,652億円であり、前年同期比9.8%増加するとともに「銅及び同合金」も前年同期比24.5%増加して598億円となっています。また、「有機化合物」は前年同期比4.5%減少の604億円となっています。

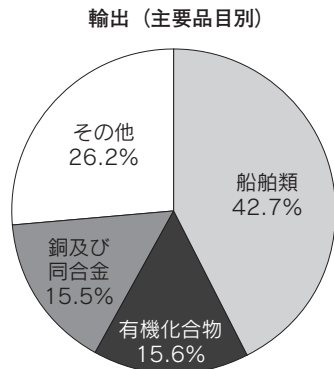
また、輸出全体に占める割合では、「船舶類」が前年同期の41.6%から42.7%と若干上昇して半分近くを占めています。「有機化合物」は前年同期の17.5%から15.6%に若干低下していますが、「銅及び同合金」は前年同期の13.3%から15.5%と割合が高くなっています。

なお、品目別の主要輸出仕向国としては、「船舶類」はパナマ65.4%、シンガポール13.8%、マーシャル11.4%、「有機化合物」は中国33.5%、韓国32.7%、台湾14.3%、そして、「銅及び同合金」は中国44.7%、台湾32.6%、インドネシア9.0%となっています。

（表3）愛媛県の平成24年上半期の品目別輸出額表（速報値）

	品 目	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	仕向国（構成比）
1	船舶類	165,172	42.7%	109.8%	パナマ（65.4%） シンガポール（13.8%） マーシャル（11.4%）
2	有機化合物	60,406	15.6%	95.5%	中国（33.5%） 韓国（32.7%） 台湾（14.3%）
3	銅及び同合金	59,822	15.5%	124.5%	中国（44.7%） 台湾（32.6%） インドネシア（9.0%）

(グラフ2) 愛媛県の平成24年上半期輸出 (主要品目別)



(2) 主要地域 (国) 別の輸出状況

平成24年上半期の愛媛県内からの輸出仕向国 (速報値) では、上位の2か国は前年同期と同じでしたが、第3位と第4位が入れ替わっています。

第1位はパナマで1,080億円と前年同期比1.0%増加しています。第2位は中国の797億円であり、前年同期比12.7%の増加となっています。第3位は韓国が前年同期比19.4%増加の358億円となり、第4位は台湾で350億円で前年同期比3.6%の減少となっています。

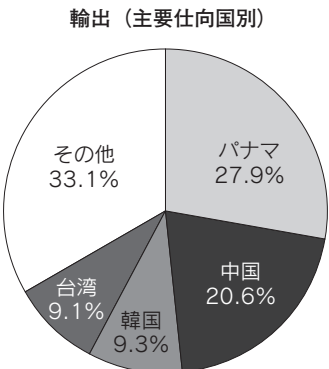
輸出全体に占める割合は、第1位パナマが前年同期の29.5%から1.6%低下して27.9%、第2位の中国が前年同期の19.5%から1.1%上昇して20.6%になっています。また、前年同期第4位の韓国は、8.3%から9.3%に1.0%上昇して第3位となる一方で、前年同期に第3位だった台湾は10.0%から9.1%に低下して第4位となりました。

また、各仕向国への輸出品目は、パナマは「船舶類」が100%。中国は「銅及び同合金」が33.6%、「有機化合物」が25.4%と両方で59.0%と半分以上を占めています。韓国への輸出品目は「有機化合物」が55.2%と半分以上となっており、台湾は「銅及び同合金」が55.8%「有機化合物」が24.7%と、両品目で80.5%と輸出のほとんどを占めています。

(表4) 愛媛県の平成24年上半期の仕向国別輸出額表 (速報値)

	仕向国	価額 (百万円)	構成比	前年 同期比	主要品目 (構成比)
1	パナマ	107,970	27.9%	101.0%	船舶類 (100.0%)
2	中 国	79,682	20.6%	112.7%	銅及び同合金 (33.6%) 有機化合物 (25.4%)
3	韓 国	35,829	9.3%	119.4%	有機化合物 (55.2%)
4	台 湾	35,018	9.1%	96.4%	銅及び同合金 (55.8%) 有機化合物 (24.7%)

(グラフ3) 愛媛県の平成24年上半期輸出 (主要仕向国別)



3. 輸入の状況

(1) 主要品目別の輸入状況

平成24年上半期の愛媛県内の主要輸入品目 (速報値) は、「原油及び粗油」が1,902億円と前年同期比で1.6%増加する一方、「非鉄金属鉱」は1,482億円と前年同期比15.4%減少、また火力発電用需要により「石炭」が前年同期比23.2%増の201億円、「石油製品」も同じく29.0%増の189億円とそれぞれ大幅に増加しています。

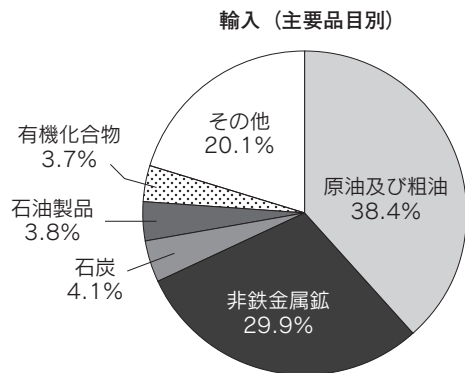
また、輸入全体に占める割合では、「原油及び粗油」は前年同期の35.6%から38.4%に上昇していますが、「非鉄金属鉱」は前年同期の33.3%から29.9%に低下しています。「石炭」4.1%、「石油製品」3.8%、「有機化合物」3.7%とそれぞれ前年同期よりも割合が上昇して上位5品目に入る一方で、前年同期に上位5品目に入っていた「非鉄金属鉱」は前年同期よりも割合が低下して上位5品目から脱落しています。

なお、品目別の主要輸入仕向国では、「原油及び粗油」はサウジアラビア、「非鉄金属鉱」はチリ、ペルーおよびインドネシア、「石炭」はオーストラリア、「石油製品」は韓国、アメリカ、ロシアが主要仕向国となっています。

(表5) 愛媛県の平成24年上半期の品目別輸入額表 (速報値)

	品 目	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	仕向国 (構成比)
1	原油及び粗油	190,170	38.4%	101.6%	サウジアラビア (51.4%) インドネシア (9.8%) ベトナム (8.0%)
2	非鉄金属鉱	148,166	29.9%	84.6%	チリ (33.9%) ペルー (19.7%) インドネシア (12.1%)
3	石 炭	20,125	4.1%	123.2%	オーストラリア (79.9%) インドネシア (19.9%)
4	石油製品	18,927	3.8%	129.0%	韓国 (30.0%) アメリカ (23.3%) ロシア (18.5%)
5	有機化合物	18,409	3.7%	130.6%	韓国 (28.0%) 台湾 (19.4%) サウジアラビア (18.9%)

(グラフ4) 愛媛県の平成24年上半期輸入（主要品目別）



(2) 主要地域（国）別の輸入状況

平成24年上半期の愛媛県内の輸入仕向国（速報値）の第1位は前年同期と同じサウジアラビアで1,015億円と前年同期比35.7%増加しています。続くチリは556億円と前年同期比7.3%の増加、オーストラリアは453億円と前年同期比5.5%増加となる一方、インドネシアは28.0%減少して451億円となりました。また、中国は前年同期比31.3%増の301億円となっています。

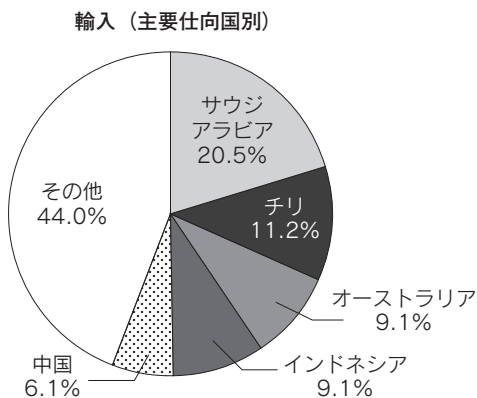
輸入全体に占める割合は、第1位のサウジアラビアが前年同期の14.2%から20.5%とさらに上昇するとともにチリは前年同期の9.8%から11.2%に、オーストラリアも8.1%から9.1%へと上昇して、それぞれ第2位と第3位になっています。一方、前年同期第2位のインドネシアは11.9%から9.1%に低下して第4位へと後退するとともに新たに中国が6.1%と第5位に入ってきました。

また、仕向国からの輸入品目では、サウジアラビアは「原油及び粗油」、チリは「非鉄金属鉱」がそれぞれ大半を占め、オーストラリアは「石炭」と「非鉄金属鉱」がそれぞれ3分の1程度、インドネシアは「原油及び粗油」と「非鉄金属鉱」がそれぞれ40%程度を占めています。

(表6) 愛媛県の平成24年上半期の仕向国別輸入額表（速報値）

	仕向国	価額 (百万円)	構成比	前年 同期比	主要品目（構成比）
1	サウジアラビア	101,538	20.5%	135.7%	原油及び粗油（96.2%）
2	チリ	55,635	11.2%	107.3%	非鉄金属鉱（90.3%） パルプウッド等（7.3%）
3	オーストラリア	45,270	9.1%	105.5%	石炭（35.5%） 非鉄金属鉱（34.5%） 原油及び粗油（14.8%）
4	インドネシア	45,071	9.1%	72.0%	原油及び粗油（41.3%） 非鉄金属鉱（39.7%） 石炭（8.9%）
5	中国	30,109	6.1%	131.3%	鉄鋼製構造物及び 同建設機材（32.6%） 原油及び粗油（14.8%）

(グラフ5) 愛媛県の平成24年上半期輸入（主要仕向国別）



4. 愛媛県内の税関官署（所）別の貿易額

愛媛県内には、神戸税関の支署、出張所として、松山税関支署、宇和島出張所、今治税関支署、新居浜税関支署、三島出張所の各支署、出張所があり、愛媛県全域をそれぞれ管轄しています。

各支署および出張所の平成24年上半期における貿易額は下表のようになっています。

(表7) 平成24年上半期の愛媛県税関官署（所）別貿易額（確報値）

総額	価額（百万円）	前年同期比	構成比
愛媛県	882,722	99.3%	100.0%
松山税関支署	85,188	117.9%	9.6%
宇和島出張所	3,331	167.5%	0.4%
今治税関支署	395,291	102.5%	44.8%
新居浜税関支署	348,711	94.4%	39.5%
三島出張所	50,201	85.0%	5.7%
輸出	価額（百万円）	前年同期比	構成比
愛媛県	386,900	106.9%	100.0%
松山税関支署	62,506	118.9%	16.2%
宇和島出張所	2,582	245.2%	0.7%
今治税関支署	162,152	98.8%	41.9%
新居浜税関支署	154,128	113.2%	39.8%
三島出張所	5,532	69.1%	1.4%
輸入	価額（百万円）	前年同期比	構成比
愛媛県	495,822	94.1%	100.0%
松山税関支署	22,682	115.3%	4.6%
宇和島出張所	749	80.1%	0.2%
今治税関支署	233,139	105.2%	47.0%
新居浜税関支署	194,583	83.4%	39.2%
三島出張所	44,669	87.4%	9.0%

(1) 松山税関支署、宇和島出張所

松山税関支署管内（松山税関支署、宇和島出張所）の貿易概況は、輸出が前年同期比21.3%増加の651億円、輸入も13.7%増加して234億円、総額では前年同期比19.2%増加の885億円となっています。

輸出では、韓国や中国向けの有機化合物が前年同期比83.1%増加の182億円で輸出全体の27.9%となっています。また、欧米向け農業用機械が前年同期比若干の減少ながら68億円と全体の10.5%を占めているほか、プラスチック、繊維機械、織物用糸がそれぞれ10%近くになっています。

輸入では、石油製品が前年同期から3倍近く増加して62億円となり輸入全体の26.5%、有機化合物は半減したものの輸入全体の14.5%、34億円となっています。また、中国や韓国からの魚介類とカナダからの木材がそれぞれ輸入全体の6.5%および5.0%を占めています。

(表8) 平成24年上半年期の松山税関支署管内の貿易総額(確報値)

	松山税関支署管内の貿易総額				松山 (百万円)	宇和島 (百万円)
	(百万円)	前年同期比	対愛媛	対四国		
総額	88,519	119.2%	10.0%	6.1%	85,188	3,331
輸出	65,088	121.3%	16.8%	11.5%	62,506	2,582
輸入	23,431	113.7%	4.7%	2.6%	22,682	749

(注) 松山税関支署管内(松山税関支署および宇和島出張所)

(表9) 松山税関支署管内の平成24年上半年期の輸出入額(確報値)推移

	輸出		輸入		総額	
	価額 (百万円)	前年 同期比	価額 (百万円)	前年 同期比	価額 (百万円)	前年 同期比
2006年	135,925	112.6%	53,848	93.2%	189,773	106.3%
2007年	129,031	94.9%	48,565	90.2%	177,596	93.6%
2008年	132,506	102.7%	50,615	104.2%	183,121	103.1%
2009年	88,136	66.5%	57,183	113.0%	145,319	79.4%
2010年	98,397	111.6%	69,603	121.7%	168,000	115.6%
2011年	107,686	109.4%	40,389	58.0%	148,075	88.1%
2011年 上半期	53,645	117.0%	20,613	56.6%	74,258	90.3%
2012年 上半期	65,088	121.3%	23,431	113.7%	88,519	119.2%

(注) 松山税関支署管内(松山税関支署および宇和島出張所)

(表10) 松山税関支署の平成24年上半年期の品目別輸出額表(速報値)

	品目	価額 (百万円)	構成比	前年 同期比	仕向国(構成比)
1	有機化合物	18,162	27.9%	183.1%	韓国(56.5%) 中国(26.2%)
2	農業用機械	6,845	10.5%	96.3%	アメリカ(45.9%) ドイツ(14.8%)
3	プラスチック	6,130	9.4%	94.8%	中国(41.7%) 台湾(18.2%)
4	繊維機械	6,076	9.3%	124.7%	中国(98.1%)
5	織物用糸	5,317	8.2%	99.4%	フランス(72.9%) アメリカ(13.3%)

(表11) 松山税関支署の平成24年上半年期の仕向国別輸出額表(速報値)

	仕向国	価額 (百万円)	構成比	前年 同期比	主要品目(構成比)
1	中国	19,359	29.7%	125.4%	繊維機械(30.8%) 有機化合物(24.6%)
2	韓国	14,040	21.6%	2.1倍	有機化合物(73.1%) 魚介類(生鮮)(6.0%)
3	アメリカ	8,133	12.5%	123.5%	農業用機械(38.6%) 織物用糸(8.7%)
4	フランス	5,426	8.3%	98.5%	織物用糸(71.4%) 農業用機械(14.7%)
5	台湾	4,048	6.2%	80.3%	有機化合物(32.8%) 半導体等製造装置(14.3%)

(表12) 松山税関支署の平成24年上半年期の品目別輸入額表(速報値)

	品目	価額 (百万円)	構成比	前年 同期比	仕向国(構成比)
1	石油製品	6,201	26.5%	2.7倍	韓国(73.6%) インドネシア(26.4%)
2	有機化合物	3,385	14.5%	58.4%	サウジアラビア(66.2%) 韓国(15.8%)
3	魚介類 (生鮮・冷凍)	1,520	6.5%	103.9%	中国(30.1%) 韓国(28.5%)
4	木材	1,178	5.0%	74.7%	カナダ(96.5%)
5	プラスチック 製品	873	3.7%	122.6%	アメリカ(63.3%) 中国(28.4%)

(表13) 松山税関支署の平成24年上半年期の仕向国別輸入額表(速報値)

	仕向国	価額 (百万円)	構成比	前年 同期比	主要品目(構成比)
1	韓国	7,473	31.9%	144.8%	石油製品(61.0%) 有機化合物(7.1%)
2	中国	4,408	18.8%	99.8%	魚介類(10.4%) 鉄鋼の棒等(6.0%)
3	インドネシア	2,406	10.3%	4.8倍	石油製品(68.1%) 綿花(12.0%)
4	サウジアラビア	2,241	9.6%	64.7%	有機化合物(100.0%)
5	台湾	1,620	6.9%	137.4%	自動車部品(4.2%) 有機化合物(4.0%)

(2) 今治税関支署

今治税関支署では、輸出は前年同期比若干減少ですが、1,622億円と愛媛県全体の41.9%、一方輸入は2,331億円で同じく47.0%、総額で3,953億円の44.8%と県内最大の貿易額となっています。

輸出は、船舶が1,155億円で全体の71.2%とほとんどを占めており、その他には有機化合物と石油製品の割合がそれぞれ11.7%および9.0%になっています。

また、輸入では、燃料の原油及び粗油が1,902億円で全体の81.8%とほとんどを占め、その他には石油製品と有機化合物がそれぞれ5.5%と4.0%を占めています。

(表14) 平成24年上半年期の今治税関支署の貿易総額(確報値)

	今治税関支署の貿易総額			
	(百万円)	前年同期比	対愛媛	対四国
総額	395,291	102.5%	44.8%	27.1%
輸出	162,152	98.8%	41.9%	28.7%
輸入	233,139	105.2%	47.0%	26.0%

(表15) 今治税関支署の平成24年上半年期の輸出入額(確報値)推移

	輸出		輸入		総額	
	価額 (百万円)	前年 同期比	価額 (百万円)	前年 同期比	価額 (百万円)	前年 同期比
2006年	184,987	111.5%	314,229	109.4%	499,217	110.2%
2007年	271,216	146.6%	412,275	131.2%	683,491	136.9%
2008年	312,950	115.4%	446,701	108.4%	759,651	111.1%
2009年	284,927	91.0%	228,083	51.1%	513,010	67.5%
2010年	307,636	108.0%	284,818	124.9%	592,455	115.5%
2011年	325,451	105.8%	452,473	158.9%	777,924	131.3%
2011年 上半期	164,152	102.3%	221,648	159.9%	385,800	129.0%
2012年 上半期	162,152	98.8%	233,139	105.2%	395,291	102.5%

(表16) 今治税関支署の平成24年上半期の品目別輸出額表(速報値)

	品 目	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	仕向国 (構成比)
1	船 舶	115,514	71.2%	100.3%	パナマ (63.5%) シンガポール (14.8%)
2	有機化合物	18,988	11.7%	68.0%	韓国 (44.3%) 中国 (41.5%)
3	石油製品	14,608	9.0%	132.0%	シンガポール (63.1%) 中国 (27.1%)
4	無機化合物	1,585	1.0%	127.9%	韓国 (35.4%) 中国 (31.5%)
5	アルミニウム 及び同合金	443	0.3%	143.8%	韓国 (100.0%)

(表17) 今治税関支署の平成24年上半期の仕向国別輸出額表(速報値)

	仕向国	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	主要品目 (構成比)
1	パナマ	73,358	45.2%	96.6%	船舶類 (100.0%)
2	シンガポール	26,395	16.3%	3.3倍	船舶類 (64.9%) 石油製品 (34.9%)
3	マーシャル	15,647	9.6%	130.1%	船舶類 (100.0%)
4	中 国	15,028	9.3%	131.2%	有機化合物 (52.4%) 石油製品 (26.4%)
5	韓 国	13,727	8.5%	89.4%	有機化合物 (61.3%) 石油製品 (10.4%)

(表18) 今治税関支署の平成24年上半期の品目別輸入額表(速報値)

	品 目	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	仕向国 (構成比)
1	原油及び 粗油	190,170	81.8%	101.6%	サウジアラビア (51.4%) インドネシア (9.8%)
2	石油製品	12,721	5.5%	102.8%	アメリカ (34.7%) ロシア (27.5%)
3	有機化合物	9,407	4.0%	2.7倍	韓国 (49.2%) 台湾 (25.4%)
4	石油ガス類	4,635	2.0%	81.5%	UAE (53.6%) カタール (46.3%)
5	銀及び白金族	3,973	1.7%	25.5倍	韓国 (100.0%)

(表19) 今治税関支署の平成24年上半期の仕向国別輸入額表(速報値)

	仕向国	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	主要品目 (構成比)
1	サウジアラビア	97,804	42.1%	139.6%	原油及び粗油 (99.9%)
2	インドネシア	18,768	8.1%	80.8%	原油及び粗油 (99.2%)
3	ベトナム	16,013	6.9%	3.5倍	原油及び粗油 (94.8%)
4	韓 国	13,544	5.8%	2.5倍	有機化合物 (34.2%) 銀及び白金族 (29.3%)
5	赤道ギニア	12,996	5.6%	全増	原油及び粗油 (100.0%)

(3) 新居浜税関支署、三島出張所

新居浜税関支署管内(新居浜税関支署、三島出張所)の貿易概況は、輸出が前年同期比10.7%増加して1,597億円となる一方で、輸入は15.9%減少して2,393億円となり、総額では前年同期比で6.9%減少して3,989億円となっています。

新居浜税関支署での輸出は、中国や台湾向けの銅及び同合金が前年同期比24.7%増加して598億円となり全体の38.8%を占める一方、船舶も前年同期比39.4%増加して461億円で29.9%を占めています。

また、輸入は原材料となる非鉄金属鉱が前年同期か

ら15.4%減少しましたが、1,482億円で全体の76.1%と大半を占めています。

(表20) 平成24年上半期の新居浜税関支署管内の貿易総額(確報値)

	新居浜税関支署管内の貿易総額 (百万円)				新居浜 (百万円)	三島 (百万円)
	前年同期比	対愛媛	対四国			
総額	398,912	93.1%	45.2%	27.3%	348,711	50,201
輸出	159,660	110.7%	41.3%	28.3%	154,128	5,532
輸入	239,252	84.1%	48.3%	26.7%	194,583	44,669

(注) 新居浜税関支署管内(新居浜税関支署および三島出張所)

(表21) 新居浜税関支署管内の平成24年上半期の輸出入額(確報値) 推移

	輸出		輸入		総額	
	価 額 (百万円)	前年 同期比	価 額 (百万円)	前年 同期比	価 額 (百万円)	前年 同期比
2008年	300,436	—	487,544	—	787,980	—
2009年	273,970	91.2%	369,954	75.9%	643,924	81.7%
2010年	313,857	114.6%	477,430	129.1%	791,287	122.9%
2011年	262,687	83.7%	478,451	100.2%	741,139	93.7%
2011年 上半期	144,199	85.0%	284,371	112.0%	428,571	101.2%
2012年 上半期	159,660	110.7%	239,252	84.1%	398,912	93.1%

(注) 新居浜税関支署管内(新居浜税関支署および三島出張所)

(表22) 新居浜税関支署の平成24年上半期の品目別輸出額表(速報値)

	品 目	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	仕向国 (構成比)
1	銅及び同合金	59,755	38.8%	124.7%	中国 (44.8%) 台湾 (32.6%)
2	船 舶	46,143	29.9%	139.4%	パナマ (67.4%) 香港 (13.5%)
3	有機化合物	23,256	15.1%	91.4%	中国 (32.8%) 台湾 (29.5%)
4	プラスチック	7,242	4.7%	88.4%	中国 (38.2%) 香港 (17.8%)
5	鉄 鋼	5,756	3.7%	55.5%	中国 (99.9%)

(表23) 新居浜税関支署の平成24年上半期の仕向国別輸出額表(速報値)

	仕向国	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	主要品目 (構成比)
1	中 国	44,283	28.7%	107.6%	銅及び同合金 (60.4%) 有機化合物 (17.2%)
2	パナマ	31,112	20.2%	107.9%	船舶 (100.0%)
3	台 湾	29,468	19.1%	102.5%	銅及び同合金 (66.0%) 有機化合物 (23.3%)
4	香 港	7,897	5.1%	400.4%	船舶 (79.1%) 無機化合物 (1.4%)
5	インドネシア	6,505	4.2%	105.9%	銅及び同合金 (82.5%) 有機化合物 (13.1%)

(表24) 新居浜税関支署の平成24年上半期の品目別輸入額表(速報値)

	品 目	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	仕向国 (構成比)
1	非鉄金属鉱	148,166	76.1%	84.6%	チリ (33.9%) ペルー (19.7%)
2	石 炭	12,293	6.3%	144.8%	オーストラリア (85.5%) インドネシア (14.2%)
3	金属製品	9,973	5.1%	111.4%	中国 (99.3%)
4	非鉄卑金属 くず	9,260	4.8%	31.8%	スペイン (92.5%) レバノン (3.4%)
5	有機化合物	5,552	2.9%	117.4%	タイ (31.5%) サウジアラビア (22.4%)

(表25) 新居浜税関支署の平成24年上半期の仕向国別輸入額表 (速報値)

	仕向国	価 額 (百万円)	構成比	前年 同期比	主要品目 (構成比)
1	チ リ	50,258	25.8%	112.5%	非鉄金属鉱 (100.0%)
2	ペルー	29,149	15.0%	80.0%	非鉄金属鉱 (100.0%)
3	オーストラリア	28,246	14.5%	110.0%	非鉄金属鉱 (55.4%) 石炭 (37.2%)
4	インドネシア	20,187	10.4%	61.1%	非鉄金属鉱 (88.6%) 石炭 (8.6%)
5	フィリピン	14,167	7.3%	83.2%	非鉄金属鉱 (100.0%)

5. 四国圏での愛媛県の貿易状況

(1) 四国圏の県別貿易額

四国圏の平成24年上半期県別貿易額は下表のとおりです。

四国圏全体での平成24年上半期の輸出および輸入は、前年同期比でそれぞれ1.0%、5.3%増加して5,642億円と8,953億円、総額では3.5%増加して1兆4,594億円になっています。

(表26) 平成24年上半期の四国圏県別貿易状況 (確報値)

総 額	価額 (百万円)	前年同期比	構成比
四国圏	1,459,441	103.5%	100.0%
愛媛県	882,722	99.3%	60.5%
香川県	494,962	112.5%	33.9%
徳島県	53,638	112.8%	3.7%
高知県	28,119	84.8%	1.9%
輸 出	価額 (百万円)	前年同期比	構成比
四国圏	564,159	101.0%	100.0%
愛媛県	386,900	106.9%	68.6%
香川県	149,883	91.1%	26.6%
徳島県	10,192	90.6%	1.8%
高知県	17,184	81.8%	3.0%
輸 入	価額 (百万円)	前年同期比	構成比
四国圏	895,282	105.3%	100.0%
愛媛県	495,822	94.1%	55.4%
香川県	345,079	125.2%	38.5%
徳島県	43,446	119.6%	4.9%
高知県	10,935	90.1%	1.2%

(2) 四国内での愛媛県の状況

愛媛県の平成24年上半期貿易額は、輸出と輸入ともに四国全体の半分以上を占めており、輸出は3,869億円で四国全体の68.6%、輸入は4,958億円で55.4%、総額では8,827億円で60.5%となっています。

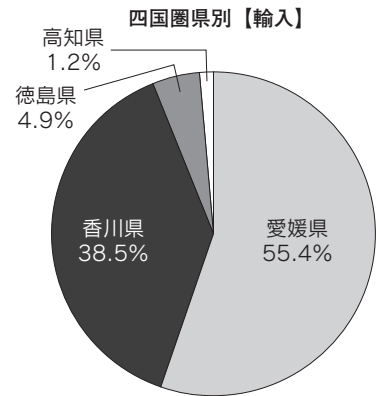
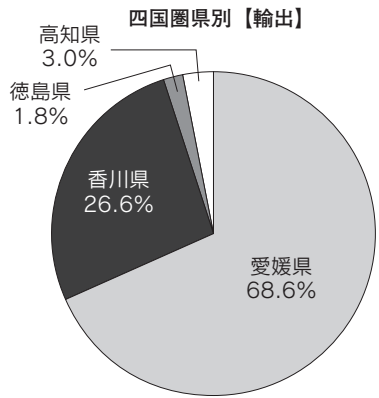
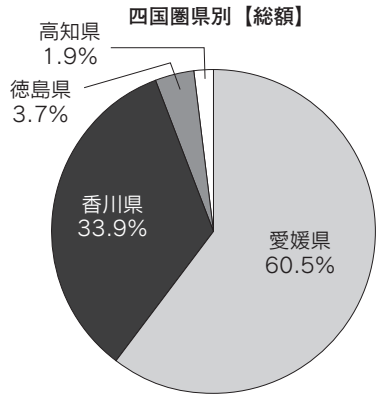
平成24年上半期の輸出では、他の各県が前年同期比で減少する中、愛媛県だけが6.9%増加の3,869億円となり、四国全体での割合も68.6%とさらに大きくなっています。また、愛媛県は従来から今治地区と新居浜地区が船舶や金属等の原材料輸出等によって県全体の80%以上、四国全体の輸出に対しても50%以上を占めています。

平成24年上半期の輸入では、愛媛県は前年同期比5.9%減少の4,958億円となりましたが、四国全体では

55.4%を占めています。また、輸出と同様に輸入においても、愛媛県全体の90%以上を占める今治、新居浜の両地区の四国全体に対する割合も50～60%程度になっています。今治地区は、燃料となる「原油及び粗油」が80%以上、新居浜では、原材料となる「非鉄金属鉱」が70%以上と輸入の大半を占めています。

総額では、平成24年上半期の愛媛県の輸出入は、前年同期から0.7%減少の8,827億円であり、四国全体の60.5%になっています。

(グラフ6) 四国圏での愛媛県の平成24年上半期貿易概況



(注) 本稿は、神戸税関および松山税関支署の貿易統計等の各種資料に基づいて、公益社団法人愛媛県産業貿易振興協会が作成しています。

会 員 紹 介

有限会社 木下工業



木下勝彰
代表取締役

本 社：愛媛県喜多郡内子町平岡1819-1

設 立：昭和28年12月

事業内容：レンガ・石材の輸入卸売り、コンクリート
ブロックの製造、景観材料・ガーデン用品
の卸売り

代 表 者：代表取締役 木下 勝彰

資 本 金：300万円

売 上 高：9,200万円（平成25年2月予定）

従業員数：3名

1. 会社沿革、納入実績

- ・戦 前 大洲和紙（手すき和紙）の原料卸
売業を営む
- ・昭和28年12月 木下清衛（初代）(株)天神粘土瓦工
場を買収、木下製瓦所創業
- ・昭和38年10月 平岡1938番地にて木下亮衛（二代
目）建築用空洞コンクリートブ
ロックの製造開始
木下瓦工業に商号変更
- ・昭和44年10月 平岡1819-1現所在地に工場移転
（新工場）
- ・昭和45年4月 日本興業(株)の製品取扱い開始
- ・昭和47年4月 四国ブロック興業(株)の製品取扱い
開始
- ・昭和53年1月 地元製材所を買収、木製パレット
部材の生産を始める（製材部設立）
- ・昭和55年12月 製材部閉鎖（翌年製材工場は売却
処分）
- ・昭和62年4月 日本興業(株)販売特約店となる
- ・平成3年4月 法人成り 有限会社木下工業に商
号変更
- 12月 四国ブロック興業(株)（現東洋工業
株）販売特約店となる
- ・平成5年6月 石材直輸入開始 韓国（釜出港）～
今治港に最初のコンテナ到着

- ・平成7年7月 イタリアより大理石の直輸入開始
- 8月 中国産花崗岩製品の直輸入開始
- ・平成8年4月 オーストラリアレンガの直輸入開始
- 12月 英国ポートベロー（ロンドン）に
てヴィンテージレンガの委託生産
（採取）、輸入開始
- ・平成9年1月 韓国GONGGAN CERAMICよりレ
ンガの輸入開始
- ・平成10年4月 株式会社旭ダンケ（旭川市）販売
特約店となる
- ・平成12年6～9月 松山地方検察庁宇和島合同庁舎に
囲障石垣納入
- ・平成15年2月 中国（上海）の合弁会社（上海春
凱国際貿易有限公司）に資本参加
- 3月 木下勝彰（三代目）代表取締役就任
- ・平成17年12月 今治新都市造成工事D工区に花崗
岩製品を納入
- ・平成18年2月 中東（カタール）へ花崗岩製品を
輸出する（初輸出）
- 11月 道後温泉周辺整備工事に花崗岩製
品の納入開始
坂の上の雲ミュージアムに花崗岩
製品（小舗石）を納入
- ・平成19年9月 早稲田実業学校（国分寺市）卒業
記念碑制作、王貞治記念球場に納
入する
- 10月 米田吉盛氏（神奈川大学創立者）
胸像・創立80周年記念石碑制作
- ・平成20年10月 愛媛信用金庫鷹子研修所駐車場に
花崗岩製品（小舗石）を納入
- ・平成23年7月 内子座周辺整備工事に花崗岩製品
を納入
- ・平成24年7月 レンガOEM生産開始(高松市牟礼町)



当社本社ヤード全景

2. 業務内容紹介

(1) 輸入卸

弊社が取扱う石は墓石とは異なり建築用材やモ
ニュメントの制作や景観造園用材として使用され

るものです。輸入を始めた20年前は、韓国の石は韓国から、インドの石はインドから、というように原産国から仕入れるのが主流でしたが、今では南アフリカの黒御影石、ノルウェーやフィンランドの花崗岩、北米のマホガニー、スペイン、イタリア、ロシアの大理石、さらに韓国や日本の銘石までも、中国国内に原石・半製品が入っており、今や世界中のメジャーな石種はほとんど中国国内で調達が可能になっています。

日本国内（岐阜県大垣市周辺）にも、世界中から輸入された石種がそろっていますので、ニーズに合わせ日本国内加工品（大垣市内協力工場から）と中国加工の輸入製品の両方を供給させていただいております。

近年の実績では、中国福建省・山東省産の花崗岩製品と同河北省からの石英岩製品が半分を占め、あとの半分はレンガになります。現在、上海アンティークとノッティングヒルのアンティークを名古屋港へ入れています。オーストラリアレンガについては、現在大型物件以外はアンティークのみの輸入にしぼり込み、汎用品は同業者より国内在庫品を購入し販売をしています。



松山港にてレンガの出バン作業



松山港にてレンガ積み込み作業

(2) 空洞コンクリートブロックの製造

昭和20年の暮れに日本で最初の工場が横浜に誕生（マシンはアメリカ製）、爾来高度経済成長とともに全国に普及し、セメント系建材の大ヒット商品となったのが「ブロック」です。

昭和40年代後半のピーク時には、愛媛県内にも60社を超える事業所（工場）がありましたが、需要減少と価格競争などで廃業が続き、現在では県内で5～6事業所だけになっています。近年やっと耐震基準を満たす正しい施工（安全な基礎と配

筋）が徹底されるようになり、比較的ローコストで壁が作れることが再評価されて出荷数もここ1～2年緩やかな回復、復調のきざしが見えてきています。特に弊社の製品はノンJISながらJIS基準強度の約2倍の強度があり、南予地域では根強いご支持をいただいております。

(3) カラーブロックの販売

日本興業（香川県さぬき市）と東洋工業（香川県高松市）の四国二大メーカーの特約店として、主に南予・中予エリアで販売しています。住宅建築数の減少と公共事業費の削減により出荷数の低迷が続いていますが、芝生を併用した緑化ブロック製品（舗装材）や外気温度の上昇を抑える平板製品（保水性舗装材）など環境を重視した機能を備えた製品は売り上げが伸びています。

また、各メーカーもコンクリートブロックだけに固執することなく、ガーデン関連商材をトータルで提案する販売に切り替えておられ、ライティング製品、組み立て式ピザ窯、ガーデンシンク（庭に置く流し台）など従来の資材カテゴリに入らない“安らぎ快適生活用材”とでも呼ばばいいのか？これらの売り上げも伸びてきています。

3. わが社の国際化

昭和30年代前半に岐阜県の石材店がイタリアより大理石原石の輸入を始められたのが我が国で最初の石材輸入と聞いていますが、当時はまだ原石を海外から輸入して国内で加工製品化する時代でした。20年後の昭和50年代前半には日本国内で建築用材として使用される石の原産国は80%以上既に外材となっていましたので、高度成長期の間で業界が様変わりしたことがわかります。昭和50年代中頃に入ってイタリアのタイルマシン（300mm角や400mm角で12mm～15mmの薄板天然石材を大量に製造することができる）が世界各国に輸出されるようになり（このサイズが世界規格となる）、これに合わせて原石も世界各国からこれらの規格材工場へ大量輸出されるようになりました。昭和60年代（1985年頃か）に入ると、アジアにも清州（韓国）と花蓮（台湾）に薄板の大規模工場が誕生して、日本もちょうどバブルの初期でしたので、ほぼこの工場から数年間大量に輸入されました。

建築石材も1990年代に入り、もはや製品輸入があたりまえの時代となってきたのです。

〈きっかけは韓国からの製品輸入〉

平成5年の春、当時鋳物の部品などを輸入していた親戚から金海（韓国釜山近郊）にある建築規格石

材工場（イタリアの最新設備を導入した新工場）が誕生した情報が入り、さっそく5月の連休に訪韓、5歳年上の金海の社長は国際人で日本語も堪能、工場には南アフリカやノルディックの花崗岩原石などが山積みされていました。1コンテナだけ現地でサイン、1ヶ月後今治港で陸揚げしました。ちょうど国内でバブル崩壊という言葉が聞かれるようになった頃で小生33歳の時でした。

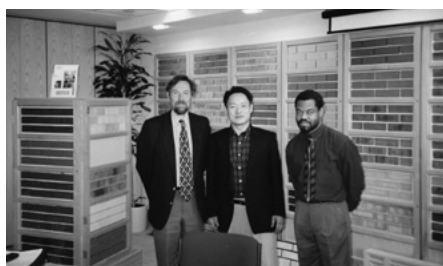
400mm角の花崗岩薄板で100枚入りの木箱40箱（計4,000枚）でしたが、完売するのに2ヶ月かかりました。

〈豪州・英国へ〉

翌1996年にはオーストラリアで念願のレンガ工場を探しあて輸入を開始しました。ちょうど国内でガーデニングという言葉が耳にするようになった頃で（この後5年間くらいガーデニングブームが起こる）エクステリア関連の間屋さんやホームセンター向けに大量輸入しました。

また、同年悲願の英国ルートが開け、ヴィンテージレンガやコッツウォルズのライムストーン、ガーデン用品の輸入をはじめました。この頃為替は年々円安となりましたが、エクステリア・造園業者さんのあいだで英国スタイルが人気となり、豪州・英国産ともにレンガの輸入は堅調でした。

言い忘れましたが、英国ガーデン関連企業で見た商品はすでにメード・イン・イングランドではなく、木製ベンチやテラコッタ鉢はインドネシア、銅製ベンチはタイやヴェトナム、タイルや石材製品はチャイナというように、ほとんどが海外で生産されたものであり、寂しさを感じたことを付け加えておきます。



LONDON BRICK社ショールームにて
（英国ベッドフォードシャー州）



オーストラリア ブリスベンのレンガ工場にて

〈中国からの石材輸入〉

中国との石材取引は、当初香港と台湾の石材商社を通じて行っていましたが、1995年からは福建省や山東省の国有企業と直接取引をするようになりました。（その後90年後半に入ると韓国勢や台湾勢も中国現地に進出、先に述べた花蓮や清州や金海の工場の時代は幕を閉じ、石材加工基地は完全に中国に移る。）現在は南安市内（福建省）に3社と河北省・青島市内（山東省）にそれぞれ協力工場を持ち、ここから直接輸入をしています。



中国の薄板工場にて
（福建省南安市）



中国福建省泉州市役所にて

4. 大切な言葉

いろいろ述べてきましたが、今回取材に来られた合田さん（産貿協専務）にロンドン以来14年振りにお会いすることができました。

時は流れ、時代は変わっていきますが、長く培った人脈だけはいまだに健在です。

故一宮能和氏からいただいた「木下君、人の行かん処へ行け」という励ましの言葉は今でも心の奥に大切にしています。

昔のように若くはないのですが、海外病は治っていないようです。なぜか出張が近づくと思わずと元気がでくるのです。



当社製作の早実野球部
卒業記念碑
（王貞治記念グラウンド
八王子市）

韓国で愛媛・松山の魅力を発信

(財)自治体国際化協会
ソウル事務所

所長補佐 松崎 謙二
(松山市より派遣)



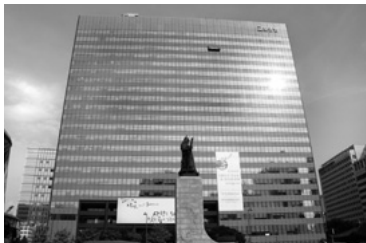
1. はじめに

私は、松山市から2010年4月に(財)自治体国際化協会に派遣され、東京本部での1年間の勤務や語学研修を経て、2011年4月に当協会のソウル事務所に赴任し、2年の任期のうち現在約1年半が経ちました。初めての海外生活、初めて踏む韓国の地、そして初めて覚える韓国語と、赴任してしばらくは未知との遭遇の連続でしたが、試行錯誤の日々を経て、最近では韓国生活にも慣れてきたところです。

ここでは、私がこれまでに経験した韓国での任務や、韓国の現況などについて紹介させていただきたいと思います。

2. (財)自治体国際化協会での任務

まずは、私が現在派遣されている(財)自治体国際化協会について簡単に紹介します。東京に事務局・本部を置き、海外に7事務所（ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、シドニー、北京）を設置しています。ソウル事務所は、1993年に設置され、現在、日本の11自治体及び総務省から派遣された13名の日本人スタッフと、4名の韓国人スタッフが勤務しています。主な業務は、日本の自治体が韓国で地域産品の販路拡大、観光PRなどを行う際の支援や、韓国内の地域振興施策の先進地調査などです。例えば、松山市の観光関係の部署から、韓国からの観光客を誘致するためソウル市内の旅行会社で観光PRをしたい、という依頼があれば、訪問先へのアポイントの取り付けや通訳の手配、訪問中のアテンドなど、目的を円滑に遂行できるようサポートしています。



事務所が入居する教保ビル、手前は李舜臣像

また、当事務所では地域の特産品を韓国に紹介し、販路拡大の足がかりとする事業も実施しています。今年の3月から4月にかけて、韓国の有名なデパートで

ある新世界百貨店で愛媛県・香川県が共同で物産展を開催し、両県の特産品の魅力をPRしました。愛媛県の特産品として、じゃこ天や蒲鉾、日本酒などを販売しましたが、じゃこ天の実演販売では売り場の前に長い行列ができるほど好評でした。



新世界百貨店での愛媛県・香川県物産展

9月には、ソウル市庁前の日本居酒屋「とんあり」で、店内に道後温泉や松山城、しまなみ海道など愛媛県の観光ポスターの掲示、タオルなどの特産品の展示や観光DVDの上映など、来店客に愛媛県の魅力を視覚的にPRする取組みを行いました。また、開催期間中にはじゃこ天が限定メニューとして登場し、愛媛県の味覚もPRしました。

このような事業を通じて、韓国でより多くの方に愛媛県や松山市の魅力を知ってもらい、韓国からの観光客の増加や韓国への販路の拡大に繋がるよう支援しています。



居酒屋「とんあり」での愛媛県PR

3. 松山市と平澤市との交流

私の派遣中の重要な任務の1つに、松山市の友好都市である京畿道平澤（ピョンテク）市とのネットワーク作りがあります。

平澤市は、京畿道の南部、ソウルから約80kmに位置し、人口は約42万人です。首都圏と中・南部を繋ぐ交通の中心地であり、また、平澤港を通じて対外貿易の関門の役割を果たしています。平澤港は貨物の取扱量で全国5位、自動車に至っては全国1位の取扱量を誇り、まさに物流の拠点といえます。

平澤市内の産業団地には、今後サムスン電子やLG電子など韓国を代表する企業が先端産業の工場を建設する予定であり、先端産業都市へと飛躍しています。

松山市と平澤市は、2004年に友好都市提携を締結しました。それ以来、中学生の相互派遣による交流やスポーツ交流、職員の相互派遣など積極的に交流を進めています。私もこれまでにたびたび平澤市を訪問し、

多くの方と知り合いになりました。この関係をいつまでも続けていきたいと思います。



平澤港のコンテナ埠頭と産業団地

4. 韓国駐在員の四国県人会

韓国の日本人駐在員のうち、同郷の人やその地域に縁のある人同士が集まって親睦を深める都道府県人会が数多くあり、その中の1つに四国県人会があります。名前のとおり四国4県に縁のある人が集まり、定期的に懇親会を開催しています。この会の特徴は、本人が四国出身でなくても、ご両親や親戚が四国の出身である、または転勤で四国に赴任していたことがあるなど、少しでも四国と縁があれば入会可能という寛容さにあります。会員数は約30名で、県別の会員数は人口に比例して、愛媛県、香川県、徳島県、高知県の順になっています。会を重ねるごとに出席者数も増えており、韓国における人脈作りにも役立っています。また、この会でのご縁で、今年の5月にソウル市内で開催された韓国三浦工業株式会社様の設立30周年記念式典にご招待いただきました。地元の企業が長きにわたり韓国でご活躍されていることを知り、大変誇りに感じました。

5. 韓国での日本食

海外での生活で神経を使うことの1つが食生活です。韓国料理といえば辛い、というイメージどおり辛い物が多いです。韓国に来て間もない頃、洋食が食べたくなり、ナポリタンスパゲティを注文すると、コチュジャン（唐辛子味噌）が入っていて辛かったのにはカルチャーショックを受けました。

また、韓国料理が続くと、たまには気分転換に和食を食べたくなることがあります。幸いソウル市内には回転寿司、ラーメン、お好み焼きなどの日本企業のチェーン店が数多くあるほか、最近は日本風の居酒屋がブームで、江南エリアなどの繁華街に次々と開店するなど、和食が食べたい時にはいつでも食べられる環境にあります。値段は日本で食べるより少し割高に感じますが、味は日本で食べるのと同じで、たまの贅沢に和食を食べてリフレッシュしています。

韓国では、最近日本のメーカーのビールも多く流通しており、人気があります。近所のスーパーで500mlの缶ビール1缶の値段を見てみると、韓国のメーカーのものは1,750ウォン（約122円、1ウォン=0.07円で計算）、日本のメーカーのものは3,500ウォン（約245円）と、約2倍の差があります。それでも、日本のビール

は味が濃くておいしいと、好んで買っていく韓国人の方も多いです。



ソウル市内の日系回転寿司店

6. 韓国の幼稚園事情

私は、家族（妻、長女（4歳））とソウル市内に住んでいます。長女は、私たちが住んでいる東部二村洞（トンブイチョンドン）という地区にある幼稚園に通っています。そこは韓国の企業が運営していますが、東部二村洞にはソウル市内で最も多く日本人が居住していることから、日本人の先生が担任の日本人クラスがあり、そのクラスに在籍しています。教育熱心な韓国らしく、幼稚園でありながら、英語の授業は毎日、そして、曜日ごとに週1回バレエ、体操、テコンドーなど多彩な授業があります。さらに、希望者は課外授業として英語、科学、美術、体操などを受講することができます。保育時間は通常で午前10時から午後3時30分、課外授業を受講する場合は午後4時30分までと、日本の幼稚園よりも保育時間が長く、給食や送迎バスもあり、保護者にとっては大変ありがたい内容となっています。

7. 韓国の最近のトピック

今年は、韓国では4年に1回の国会議員総選挙と、5年に1回の大統領選挙が同じ年に実施される、20年に一度の選挙イヤーです。4月11日に実施された国会議員総選挙では、与党のセヌリ党が、全300議席中152議席を獲得して、127議席にとどまった野党の民主統合党に勝利しました。現在は、大統領選挙の予備選挙で与野党の候補者が決まり、12月19日の投票日に向けて各陣営が動き出しています。この選挙では、韓国初の女性大統領が誕生するか、または、民主化以降初の政治経験のない大統領が誕生するか、などが話題になっています。韓国の大統領は、再選がなく1期5年限りであり、新大統領就任によってこれまでの政策が一気に変わる可能性もあるため、選挙の結果とその後の政治の動向に注目です。

8. おわりに

現在の韓国は、政治、経済などあらゆる面で変化の時代を迎えています。そのような動きを現地で直接体感できる非常に貴重な機会をいただいていますので、これからも日本や愛媛にとって有益となる情報を少しでも多く韓国から発信していきたいと思っています。

貿易投資

単独出資と合併のメリット比較：ベトナム



Q. 生産コストを下げるため、ベトナムに生産子会社を設立して、製品をベトナム国内および輸出市場向けに販売することを考えています。単独出資と合併のメリット・デメリットについて教えてください。

A. I. 単独出資と合併

海外に直接投資をする場合、単独出資か合併かは重要なポイントで、一般的には次のようなメリット・デメリットがあります。

1. 単独出資

自社経営方針が徹底できますが、合併と比較して負担する投資額が大きく、リスクが大きくなります。しかし海外進出において、失敗する原因の一つである、合併相手との紛争を避けることが出来ます。

政府機関との関係など独自の人脈構築が必要になります。

事業内容によっては外資の単独出資が認められない、あるいは認められても何らかの条件がつけられる場合もあります。

2. 合併

合併相手と分担することにより投資額とリスクを軽減できます。

合併相手の政治力、販売力や設備を利用できます。

合併相手の選択が難しく、開発途上国では資金力などの点で信頼に足る相手が少ないなどの難点があります。会社経営方針や配当方針を巡る紛争も考えられます。

従って、合併を選ぶ場合には、関係法令を熟読の上、しっかりとした「合併契約」を締結して、紛争の種をできる限り事前に摘み取っておく努力が肝要です。

ベトナムで作った製品を全量投資家が引取る（ベトナムから輸出する）場合、特別な禁止品目に該当する場合を除き、単独出資（100%外資）が認められます。

工業団地、輸出加工区に立地する場合は手続きも比較的簡素になりますので、単独出資で進出するケースが一般的です。なお、製品の全量あるいは大半をベトナム市場で販売する場合は、強い販売力をもつ現地有力企業との連携も考えられるでしょう。

II. ベトナムでの企業設立について

「共通投資法」、「統一企業法」および、「共通投資法」の施行細則108/2006/ND-CPにしたがって設立申請を行います。ベトナム独自の外国投資に対する規制や優遇等については、下記の「ベトナムでの製造業・サービス業設置の際の外資規制・奨励制度について」を参照してください。共通投資法並びに

統一企業法の詳細については、下記日本アセアンセンターのウェブサイトをご参照ください。

III. 日本との関係

日越投資協定、日越二重課税防止協定が締結されており、日越共同イニシアチブによる投資環境の改善などが進められています。日本－ベトナム2国間経済連携協定（EPA）が2008年12月に締結され、2009年10月1日より発効しています。また日本－アセアン（ベトナムを含む）包括的経済連携協定（AJCEP）は上記2国間EPAに先立ち2008年12月1日に発効しました。

関係機関

駐日ベトナム社会主義共和国大使館

（TEL 03-3466-3313）

駐大阪ベトナム総領事館商務部

（TEL 06-6261-7462）

ベトナム計画投資省：http://www.mpi.gov.vn/portal/page/portal/mpi_en

ベトナム商工会議所

（日本代表事務所（TEL 03-5215-7040））：

<http://vibforum.vcci.com.vn/>

日本アセアンセンター・ベトナムの投資ガイド：<http://www.asean.or.jp/ja/asean/known/country/vietnam/invest/guide/index.html>

関係法令

共通投資法、統一企業法（2006年7月1日施行）：

<http://www.asean.or.jp/ja/asean/known/country/vietnam/invest/guide/index1.html>（日・英仮訳の掲載あり）

参考資料・情報

「ジェトロ貿易・投資相談Q&A」『会社設立時の外資規制、奨励制度の解説：ベトナム』：<http://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/qa/03/04J-010451>
日本とベトナムのEPAについて（経済産業省サイト）：http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/epa/html2/2-torikumi3-vietnam.html

調査時点：2011/11

出所：「貿易・投資相談Q&A」『ジェトロ海外ビジネス情報』（<http://www.jetro.go.jp/world/qa/>）より転載

（まとめ：水野健二／愛媛県産業貿易振興協会）

平成24年度 国際ビジネス支援講座の開催

産貿協では、海外への販路拡大など海外展開を検討されている県内企業の貿易業務担当者の養成を支援するため、例年貿易取引に関する実務講座を開催していますが、今年度は講座内容を改正のうえ、10月と11月に以下の各講座を開催しています。

当協会会員については、各コース2名様まで受講料を無料としており、会員企業の皆さまには国際ビジネス担当者養成のための研修としてご活用いただきたいと考えています。

また、会員以外の県内企業についても、研修としてご活用いただくとともに、本講座を契機として当協会へご入会いただきたいと考えています。

貿易取引〈基礎〉コース

研修内容	講 師
平成24年10月3日(水)	
①貿易取引の仕組と基礎知識 ・貿易取引の仕組と輸出取引の流れ ・貿易取引実務上のポイント 等	(株)グローバル・ビズ・ゲート 代表取締役 池田 隆行 氏
②取引申込みから契約締結 ・貿易建値等に関する国際的商慣行 ・見積りから契約へ 等	
平成24年10月4日(木)	
③決済と金融 ・各種決済方法と概要 ・信用状と信用状統一規則 等	(株)グローバル・ビズ・ゲート 代表取締役 池田 隆行 氏
④輸送と通関 ・各種輸送方法と概要 ・通関手続きと通関業者 等	

貿易取引〈輸出実務者〉コース

研修内容	講 師
平成24年10月11日(木)	
①取引相手選定と各種規制への対応 ・市場調査、取引相手の選定と信用調査 ・輸出に関する規制や現地輸入規制 等	マルトモ(株) 執行役員 購買部 部長 房田 三雄 氏
②取引価格、決済方法の決定と契約締結 ・コスト積算と取引価格、決済方法の決定 ・契約書作成と締結に関する留意点 等	愛媛エフ・イー・ゼット(株) アイロット事業部 係長 二神 恵子 氏
平成24年10月16日(火)	
③輸出信用状の接受点検と代金回収 ・輸出信用状の接受と点検時の留意点 ・契約書照合、内容変更等の検討や指示 等	(株)愛媛銀行 国際部 副調査役 高智 真 氏
④輸出船積書類の作成と手配 ・主要船積書類 (Invoice、船荷証券、 保険証券、パッキングリスト等) の 概要と解説 等	(株)伊予銀行 国際部 課長代理 池内 亮 氏
平成24年10月23日(火)	
⑤輸出通関手続き ・税関業務と各種情報 ・通関手続きに関する留意点 等	神戸税関松山税関支署 審査官 西原 寿男 氏 審査官 岩垣 堅三 氏
⑥通関・運送業者への委託 ・輸出者と運送業者の連携と準備 ・コンテナ輸送の実務と輸送経路 等	日本通運(株) 松山支店 営業推進センター 課長 高市 浩 氏

貿易取引〈輸入実務者〉コース

研修内容	講 師
平成24年11月6日(火)	
①取引相手の選定から取引成約 ・取引相手の選定と信用調査 ・輸入に関する法的規制等の確認 等	三浦工業(株) グローバル調達部 主任 高井 康之 氏
②取引価格、決済方法の決定と契約締結 ・コスト積算と取引価格、決済方法の決定 ・契約書作成と締結に関する留意点 等	愛媛エフ・イー・ゼット(株) 総務企画部 課長代理 稲田 誠司 氏
平成24年11月13日(火)	
③輸入信用状の開設実務 ・輸入信用状の開設と留意点 ・契約条件との合致の確認 等	(株)愛媛銀行 国際部 副調査役 高智 真 氏
④輸入船積書類点検と輸入代金決済 ・主要船積書類 (Invoice、船荷証券、 保険証券、パッキングリスト等) の 概要と解説 等	(株)伊予銀行 国際部 課長代理 池内 亮 氏
平成24年11月20日(火)	
⑤輸入通関手続き ・税関業務と各種情報 ・通関手続きに関する留意点 等	神戸税関松山税関支署 審査官 西原 寿男 氏 審査官 岩垣 堅三 氏
⑥通関・運送業者への委託 ・輸送方法 (海上、航空、複合等) の 選択 ・コンテナ輸送の実務と輸送経路指定 等	日本通運(株) 松山支店 営業推進センター 課長 高市 浩 氏

受 講 料 ①貿易取引〈基礎〉コース 6,000円
②貿易取引〈輸出実務者〉コース 9,000円
(注)〈基礎〉コースとセットで12,000円
③貿易取引〈輸入実務者〉コース 9,000円
(注)〈基礎〉コースとセットで12,000円
(当協会会員は、各コース2名様まで無料)

会 場 アイテムえひめ 3階 多目的ルーム
(松山市大可賀2丁目1-28)

申込方法 所定の申込書によりお申込みください。
詳細は当協会までご連絡いただくか、または当協会 HP をご参照ください。
TEL : 089-953-3313
URL : <http://www.ehime-sanbokyo.jp>



貿易取引〈基礎〉コースの講座風景

発 行

EIBA 公益社団法人 愛媛県産業貿易振興協会

内容についてご意見、ご質問があれば、下記までお問い合わせ下さい。

〒791-8057 松山市大可賀2-1-28 アイテムえひめ3階

TEL 089-953-3313 FAX 089-953-3883

ホームページ： <http://www.ehime-sanbokyo.jp>

メールアドレス： eibassn@smile.ocn.ne.jp

印刷：セキ株式会社

〒790-8686 松山市湊町7丁目7-1

TEL 089-945-0111 FAX 089-932-0860